



### 常識を疑う

4月号の巻頭言では、生徒に「今まで当たり前だと思っていたことでも疑ってみること」つまり「常識を疑う」ことにより、探求的な深い学びに結びつけていけるようにしたいということを書きました。

では、ここで、童謡「七つの子」を例に挙げてみます。 作詞 野口雨情 作曲 本居長世

からす なぜなくの からすは山に かわいい七つの子が あるからよ  
かわい かわいと からすは なくの かわい かわいと なくんだよ  
山の古巣へ 行って見てごらん かわいい目をしたい子だよ

さて質問です。

- ①からすは、なぜないのでしょうか？ (からすがない理由は何？)
- ②からすは、どんなふうになっていますか？ (からすの「なき声」「なき方」は？)
- ③からすの子はどこにいますか？
- ④「七つ」とありますが、それは、カラスの「歳」ですか？ それとも「数」ですか？

答えです。①は、かわいい七つの子がいるからです。②は「かわい」(カラスの声だとクワイ・カーイ)です。③は山の古巣です。④はどうでしょうか？ 「七歳」だと思ふ人？ 「七羽」だと思ふ人？ その根拠は何？ これにせまったのが、「案外、知らずに歌ってた 童謡の謎」(合田道人著 祥伝社 平成14年2月20日)です。大正時代、児童雑誌に「七つの子」が七羽描かれた挿絵とともに発表された直後「七羽のからすはおかしい」という読者からの声が出版社に寄せられたそうです。ちなみに、1990年5月1日に発行された郵便記念切手、「ふるさと切手」茨城県の62円切手には、巣の中で口を開けた七羽のひな(絵 みつはし ちかこ)が描かれています。合田氏は、生物学的な面から分析します。からすは一度に七つの卵を産むのか？ 七つの卵が全部孵化するのか？ そもそもからすは七歳まで生きるのか？ 七歳のからすは人間でいうと何歳ぐらいか？ 結果は、からすは一度に七つも卵は産まず、七歳まで生きるのはまれだそうです。合田氏は、野口雨情がからすの子を人間の七歳の子にだぶらせて書いたもので、それは「七五三」の風習が根底にあったと結論づけています。

では、先日の体育祭「西中PRIDEソーラン」はどうでしょうか？ 秩父音頭を秩父の小・中学生が踊るのは当然ですが、なぜ北海道の民謡を踊るのか？ ソーラン節は、漁師がニシン漁をするときのかけ声や櫓をこいだり網を引いたりする作業を表現したものです。今から数十年前、北海道のある中学校がいちゆる校内暴力等で「荒れ」ていたのを、立ち直らせたきっかけが「ソーラン節(踊り)」だったと言われていますが実際は、学校・地域の取組により「立て直し」を実現した後のことのようにです。学校が落ち着いた状態になったとき、地域の文化祭の出し物として発表したのが、ロック調に曲も踊りもアレンジされた「ソーラン節」だったようです。その躍動感ある踊りはマスコミが取り上げ、映像でも流され、学校名から「南中ソーラン」として、全国に広がり様々な形にアレンジされていきました。ちなみに、吹上北中では「YOSAKOIソーラン」といって、鳴子(なるこ)という音の出る楽器を両手に持って鳴らしながら踊るのが特徴です。

かつて体育祭では、男子は組体操、女子は民謡や創作ダンスなどが定番でしたが、いつごろからか組体操は、「危険」だということで激減、その代わり男女一緒にできて若さやエネルギーの「表現」としてロック調の「ソーラン節」がうってつけだったというわけです。数十人から数百人が一糸乱れず一心不乱に踊る姿は迫力があります。参観された皆様ほどのような感想をお持ちになったのでしょうか？ 外国の観光客は日本の民謡の踊りや太鼓の演奏に大変感激するそうです。演者も観客も一体となって、まさに「血湧き肉躍る」状態となります。

生徒の皆さん、ありがとう。

(校長 橋本 浩)